

「ホワイトハウス・ダウン」

★★★★

2013（平成25）年7月19日鑑

賞＜GAGA試写室＞

監督：ローランド・エメリッヒ

ジョン・ケイル（議会警察官）／チャニング・テイタム

ジェームズ・ソイヤー（合衆国大統領）／ジェイミー・フォックス

キャロル・フィナティ（シークレットサービス次席特別警護官）／マギー・ギレン

ホール

エミル・ステンツ（テロ組織のリーダー）／ジェイソン・クラーク

イーライ・ラフェルソン（下院議長）／リチャード・ジェンキンス

エミリー・ケイル（ジョンの一人娘）／ジョーイ・キング

マーティン・ウォーカー（シークレットサービス長官）／ジェームズ・ウッズ

ドニー（ガイド）／ニコラス・ライト

大統領夫人／ガーセル・ボヴェイ

アルヴィン・ハモンド（副大統領）／マイケル・マーフィ

ヤノビッツ大佐／ランス・レディック

メラニー／レイチェル・レフィブレ

2013年・アメリカ映画・132分

配給／ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

＜「中東からの撤退」という「大方針」の可否は？＞

5月10日に観た『エンド・オブ・ホワイトハウス』（13年）は、北朝鮮の武装勢力とそれに呼応したホワイトハウス内の「裏切り者」による、ホワイトハウスと合衆国大統領の乗っ取り劇を描いた「エンタメ作品」だった。それと似たようなタイトル、似たようなテーマの本作は冒頭、第46代合衆国大統領ジェームズ・ソイヤー（ジェイミー・フォックス）が、中東からアメリカ軍全部隊を撤収し、同盟国に対して莫大に苦しむ国々への財政支援を呼びかける歴史的演説を終えて、専用ヘリコプターでホワイトハウスに戻ってるところからスタートする。しかし、大統領のそんな「大方針」について賛否両論があるのは当然だ。しかして、それにもっとも強く反対するのは、いったい誰？

それは、イラク戦争の開始を強く望んだのが、軍と密接に結びついたアメリカ特有の、軍産複合体だったことを考えれば明らかだが、さて本作に見る、彼らの意見を代表するアメリカの政治家は？そう考えると、本作はいかにもシリアスな映画のように思えたが、意外にも実際は「破壊王」と呼ばれているローランド・エメリッヒ監督による漫画のようなエンタメ作品に・・・。

＜主人公の職業は？目新しい「味付け」は？＞

大統領の「相棒」となって大活躍する主人公は、『エンド・オブ・ホワイトハウス』では元シークレットサービスのマイク・バニング（ジェラルド・バトラー）だったが、本作では大統領警護官（シークレットサービス）を志願しているものの、現在は議会警察官にすぎない男ジョン・ケイル（チャニング・テイタム）だ。この主人公が『エンド・オブ・ホワイトハウス』と同じように、ありえないような想定下で大統領とホワイトハウスを守るためテロリストたちと孤独な闘いをくり広げる大活劇が本作の見どころで、それは『エンド・オブ・ホワイトハウス』と全く同じ。そんな本作の目新しい「味付け」は、ジョンとその11歳の一人娘エミリー・ケイル（ジョーイ・キング）との父娘のふれ合いと、その「共闘」を描いたことだ。

7月21日に投開票された参議院議員選挙の投票率が52.61%と、辛うじて過半数を越えるだけになってしまっている今の日本では、11歳の女の子が政治好きで、ソイヤー大統領をヒーローとしているなどという想定は到底考えられないが、本作ではエミリーがジョンからホワイトハウスの通館パスを見せられることによってそれまで陰悪だった父娘が仲直りするところから物語がスタートすると言っても過言ではないほどエミリーのウエイトが大きい。したがって、本作でジョンが獅子奮迅の大活躍をするのは、一方では大統領を救出し、ホワイトハウスを守るためだが、もう一方ではテロリストたちによってホワイトハウス見学ツアー客の一人として人質にされてしまった愛娘エミリーを救出するためだ。そこらあたりの「公私混同」ぶりも本作の見どころだから、その点もじっくりと・・・。

＜「裏切り者」は誰だ！＞

『エンド・オブ・ホワイトハウス』では、北朝鮮のテロリストたちに内通する裏切り者は、シークレットサービスの幹部だった。私はそれについて「いくら何でも現役のシークレットサービスと北朝鮮のテロリストとの事前の共謀とは現実離れしており、ありえないのでは？」と書いたが、それは本作も同じだ。つまり、本作でも軍人から民兵組織の一員になったテロリストのリーダー、エミル・ステンツ（ジェイソン・クラーク）と内通するのは、今週で引退するシークレットサービス長官マーティン・ウォーカー（ジェームズ・ウッズ）だが、そんなことが現実にあるの・・・？さらに、ウォーカーがそんな裏切り者になったのは、ウォーカーの息子が大統領の「大方針」にもとづく秘密作戦で戦死したためだが、そんな個人的な恨み（憎しみ）を動機とするのはいかなるもの・・・？

もっとも、本作はそんな「裏切り者」のあり方についても、『エンド・オブ・ホワイトハウス』をさらに「複雑化」させ、ウォーカーの上に立つ者が「もう一人」いるという設定にしているから、それにも注目したい。ちなみに日本では、5年半にわたった小泉純一郎長期政権を引き継いだ安倍晋三政権が2007年9月に倒れた後、福田康夫、麻生太郎、鳩山由紀夫、菅直人、野田佳彦と約1年毎に総理大臣が交代したが、本作ではソイヤー大統領死亡（？）の後を継いで大統領に就任したのは、アルヴィン・ハモンド副大統領（マイケル・マーフィ）だ。さらに、ハモンド新大統領が乗るエアフォースワンがミサイルによって撃墜されると、その後を継いで大統領に就任したのが下院議長のイーライ・ラフェルソン（リチャード・ジェンキンス）だから、数時間のうちにめまぐるしく大統領が交代したことになる。合衆国大統領の権限として最も重要なものは核兵器の発射ボタンだが、万が一にも民意を代表していない大統領が一瞬でもそれを握ることになると・・・。

＜「ザ・ビースト」によるカーアクションの賛否は？＞

アメリカ本土は広いから合衆国大統領の国内移動には飛行機（ジェット機）が必要だが、「空飛ぶホワイトハウス」という異名を取る大統領専用機のことを「エアフォースワン」と呼ぶことを私がはじめて知ったのは『エアフォース・ワン』（97年）を観たことによる。他方、陸路の移動に合衆国大統領を乗せる専用車は「ザ・ビースト」という愛称で呼ばれているらしい。「ザ・ビースト」は装甲車のような防弾装置が施されている他、攻撃用の武器まで搭載されている巨大なリムジンだ。近時はハリウッド映画はもちろん、フランス映画でも韓国映画でもカーアクションを売りものにしていく作品が多いが、ホワイトハウスの庭を舞台とした「ザ・ビースト」によるド派手なカーアクションは本作がはじめてだろう。

『エアフォース・ワン』で合衆国大統領を演じたハリソン・フォードは、エアフォースワン内でまるで活劇スターのような格闘技を含めた大活劇を演じ、知力のみならず、体力も優れた合衆国大統領の勇姿を見せつけてくれたが、本作では、ソイヤー大統領に扮するジェイミー・フォックスも、ジョンが運転する「ザ・ビースト」内でまさかと思う力強いアクションを見せてくれるから、それにも注目！もっとも「破壊王」と呼ばれているローランド・エメリッヒ監督は、本作のために「ザ・ビースト」を3台もつくったうえ、撮影のために潰したらしいが、合衆国大統領が自らこんなド派手なカーアクションを演ずることについてのあなたの賛否は？

＜テロリストたちの要求は？＞

テロリストと呼びかかっていたホワイトハウス内の裏切り者がシークレットサービス長官のウォーカーであることが明らかになった段階では、彼らの要求は力ネだった。しかし、力ネのためにホントにこんなことまでやるの？力ネだけなら何もホワイトハウスをターゲットにしなくてもいいのでは？そう思うのは当然で、ウォーカー長官の後ろに控えている黒幕の存在が明らかになると、その要求は予想どおり（？）大統領権限として最も重要な核兵器の発射装置であったことが明らかになってくる。

この展開は『エンド・オブ・ホワイトハウス』と全く同じだが、「破壊王」と呼ばれるエメリッヒ監督らしく、本作では核兵器発射装置を手に入れてからの動きのテンポが早くなっていき、現実にはミサイルによってエアフォースワンが撃墜されてしまうからビックリ。さらに海中に潜っている原子力潜水艦から、中東だけではなくロシアや中国その他に向けてミサイルの発射ボタンがウォーカーの手によって次々と押されていくと・・・。

＜この「決断」のあり方には、かなり疑問が・・・＞

前述したように、本作では議会警察官にすぎないジョンの優れた格闘能力と臨機応変な作戦能力が見モノ。もっとも本作が面白いのは、それが発揮されるのがテロリストからの大統領救出とホワイトハウス奪還という公の要請以上に、一人娘エミリーの救出という私的な欲求が強いことだ。念願のホワイトハウス見学のツアーに参加できたその日に、たまたまテロリストたちに人質にされてしまったエミリーはいい災難だが、そこでmixiなどを活用して現場の状況を全世界に発信した知恵と勇氣は大したものだ。

当初は副大統領が、続いて下院議長がホワイトハウスへの武力攻撃をためらったのは、もちろんホワイトハウス内にソイヤー大統領が生きると確信していたため。しかし、逆にその死亡が確認され、閉じ込められているのが数十人のツアー客の人質だけとなると、さて合衆国はテロリストたちの要求に屈するべき？それとも人質もろともホワイトハウス内のテロリストを武力攻撃すべき？この決断は、誰が、いつ下すの？いくらエンタメ作品とはいえ、本作においては当然それに注目したい。その視点から見ると、テロリストたちにとってエミリーがキーウーマンになっていることがわかり、大統領とジョンに対して、「出頭してこなければエミリーを射殺するぞ」と言われる中で見せる、大統領の決断は？またジョンの決断は？

これらの「決断」のあり方に私はかなり疑問があるが、「公私混同」をどこまで許すかを含めて、さてあなたの判断は？また、2作も同じようなテーマの映画を観て気になるのは日本のホワイトハウスだが、さて日本の総理官邸は大丈夫・・・？

2013（平